

刊夕日一卅月八



定価 一部金... 発行所 常磐毎日新聞社

街で拾った戀

仲村花醉

玲子さん、僕の姿は... 然し是が人間本... 自然ではなく必然的な... 私にはさう思はれませ...

なんだ、撃つたつて良い... 明日の献立... 朝すまし汁... 焼き豆腐... 是で丁度二十回目よ...

い、五十圓一寸有つたわ... そう答へた玲子の面は暗... 貴郎、私これでの... 願ひだから、もうこ...

に、眞面目に働らさせ... 静かなる夜... 無名草... 九月一日庚午六白赤口開く...



暗黒の世界を... 信夫草人... 俺は暗黒の傀儡でも... 濃い緑の匂もせて...

旭硝子株式會社製品... 板ガラス... 松崎硝子製作所... 佛具の御用は... まづ栴屋へ!!!

Medical and business advertisements including '山内醫院' (Yamauchi Hospital), '耳鼻咽喉専門' (ENT Specialist), and '栴屋家具店' (Shibuya Furniture Store).

# 夏の圖書

## 審査の標準

### 平第一校の宿題畫展

既報平第一小學校では夏の圖書展覽會を催すべく夏休みの全校児童に對し圖書の宿題を課したが来る九月七八の兩日展覽會を開催し左の準備に依り審査して優秀者に賞状を授與すると

(高等科) 濃潤たる夏の氣分の充滿せる作品、形態をおろそかにしない作品(低學年) 單的に夏を表現したるもののみといたし元氣のあるもの

## 今度は雜役夫募集

### 炭礦活況と共に坑外の

## 仕事に手不足

既報石城郡下の各炭礦では市況の好轉につれて極力出炭能率の増加を圖り採炭夫の懸賞雇入すら行つて居り従つて坑外の仕事に従事する雜役夫も手不足を生ずるに至り本日も平職業紹介所に某大炭礦より若干の雜役夫募集の申込があつたが右は炭礦に經驗のない一般労働者で差支へないとの由

## 兒童競技

### 豫選を兼ねて

石城郡第三區に屬する平、飯野、内郷、好間、赤井、小川平窪各小學校兒童の競技會は郡下小學校兒童競技大會の豫選を兼ね九月下旬警中の豫選に於て催されるが各學年の競技種目は左の如

- くである
- (五男) 百米 四百米リレー
  - 走巾跳 ボールスロー
  - (五女) 五十米 四百米
  - リレー 走巾跳 ボールスロー
  - (六男) 百米 八百米
  - リレー 走高跳 ボールスロー
  - (六女) 百米 四百米
  - 走巾跳 ボールスロー
  - (高一男) 二百米
  - 八百米リレー 三段
  - ボールスロー
  - (高一女) 百米 四百米リレー
  - 走巾跳 ボールスロー
  - (高二男) 二百米 八百米
  - リレー 三段跳 走高跳
  - ボールスロー
  - (高二女) 百米 四百米リレー
  - 走巾跳 ボールスロー

## 出穂期に際して

### 土用干しの弊習

#### 稲の品質を害して減收

### 郡農會から注意

石城郡内の稲田は既に八分の出穂となり毎日に秋の色を深めて居るが農家では出穂期に入つて俄かに排水して炎天の下で稲田を乾かし俗に土用乾しと云ふ昔ながらの弊習を續けて居る向が

## 失業状況を視察

### 内務省社會局から内郷へ

内務省社會局の山本高雄氏に本州一日來郡平、内郷兩役場に於いて失業状況を調査する

度期的な政策として親日と云ひ排日と云ふ、それは一九三六年迄其時になれば五對三の比率で各國は

我が國に 迫つて来る

として取れるか勝つか日本人は民族としての覺悟が必要である、警口郊外田庄臺の水田今二千の鮮農がたむろして居るしんで居る何の力だ、彼此對象して思ひ半に過ぐるものがある、遼河以西は大む、坦地、肥野

## 一人一体主義で生徒に菊栽培を

### 警中作業科プラン

#### 縣補助に力を得て

警中作業科では既記の如く今般縣よりの備品購入費として六百圓を交付されたので直にシャベル、害虫驅除用噴霧器、鎌、押切、自動切斷機等を購入し來學期より本格的に三年以下の生徒に對し毎週二時間宛作業を指導する事になつたがプランは左の如くである

(二年) 教科書により理論的方面の教授、花園の手入、一人一體主義の菊の栽培、校運動場の掃除整頓(二年) 教科書により理論的方面の教授、學校樹の手入、校庭運動場の掃除整頓(三年) 教科書により理論的方面の教授、蔬菜類の栽培、庭園の手入、課外作業、校庭運動場の掃除

## 取引數量記録破り

### 但し相場は一圓臺下る

#### 四日目の四倉藪市場

四倉藪市場は第四日目の昨日に於いてレコード破りの數量三千三百三十四貫と云ふ素晴らしい取引を見た

## 模範的の鯉節を

### 水産試験場が試作

石城郡小名濱試験場では去る七月一日より鯉節製造傳習會を開き模範的の鯉節製造中であつたが本年は十五樽を試製九月より賣出すと

御愛下さい  
シボレーに!  
そは先驅者なり

磐城セメント會社特約店



磐城平町五丁目 電話九番九九番  
良品廉賣に勝る商略なし  
確實敏捷は生命なり

## 滿鮮から一筆

### 釜山公會堂にて 伊東 一

此の苦力達に驛のある方向を問かれた、言語は解らないがそれと察して指さして教へてやつた、其當時山海關で日支兵がもみにもんで盛りだつた、亡國の民の安き地を求める哀さを思は同情に耐へないものがあ

世界各國から野望の犠牲にせられんとする中國の現状を見て日本人もよく非常時を玩味しなければならぬ、敗けては駄目だ、弱くては駄目なのだ、世界は日本をにらんで居る、唐山會議の後中國では其過

査すると

平町 人事  
回婚 姻  
△三丁目七一 七井松夫氏  
(二五) 宮城縣栗原郡津久  
毛村字大原木 小岩トク  
(二三)

は初視察の爲め去る廿九日午後來平、郡農會穀物検査所、神谷農事試験分場等を視察し昨日は小名濱水産試験場に至り双葉郡に向つた

# 漸く竣工した

## 側溝上の積荷を

### 土木監督所が嚴重取締る

既報平土木監督所では去月中より本町二丁目國道の南側に測溝工事の處此程漸くコンクリートの溝に鐵板蓋をして工事全く竣工したが若し附近の各商店が鐵板蓋の上に荷類を積み上げる様な事があると道路の悪水が鐵板の穴より排出する機能が全然中断される恐れがあるので監督所では近く平署と連絡して測溝上の積荷を嚴重に取締まる事となつた

# 十五の少年が

## 幼兒を救ふ……

### 平署が表彰上申

石城郡小名濱町字上町四八 御代巖君(一)は去る廿六日 午前十一時頃同町本町三郎 長男小泉祐一(六)が海水浴 場で引潮に押流されて溺死 せんとしたのを救助したの を本日平署より縣に表彰方 を上申した

# 運轉手計りでなく

## 主人も併せて處罰

### 自動車違反取締に關し

#### 三堀檢事が語る

石城郡植田町字番匠下三番 地貨物自動車業遠藤二郎 (三)は去る六月二十六日同 居運轉手志賀三郎(三)に對 し植田町より茨城縣多賀郡 華川村役場前迄特定外の自 動車の運轉を命じ本日平區 裁判所では教唆罪として科 料十五圓、運轉手の志賀は 自動車取締令違反として十

に處罰する事にした、實際斯ふしなくては使用人の立場にある運轉手許り犠牲となつて片手落ちの觀がある、主人や目上の言付けは守らなくてはならぬ……だからと云ふて運轉すれば處罰される……此場合運轉手は甚だ氣の毒な立場に在ると思ふ、故に此種違反は今後命じた者をも教唆罪として處罰し反省を促す事とした云々

# 新學期早々

## 遠足の喜び

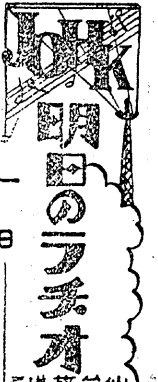
平第一 小學校 では来る九月下旬左の如く 遠足運動會を催すと (二年)内郷村權現山(二

# 入營前の惡事が

## 表沙汰となつて

### 佐藤一等兵取調べらる

石城郡飯野村大字上荒川字 島田五一生れ目下朝鮮咸興 歩兵第七十四聯隊第一中隊 一等兵佐藤孝文(三)は入營 前の昨年八月月中旬頃同町 五六横山キクが播種小路飲 食店木下ツルに貸付けた廿 圓の取立を依頼されたのを 奇貨として全額を横領した 外同十月には四丁目三六加 藤勇吉の依頼で額面六十圓 の郡山無盡會社の通帳を擔 保に長橋町政木昌太郎より 十五圓五十錢の融通を受け たのを横領費消した事發覺 平署よりの手配で目下咸興 憲兵隊に於いて取調中



今夜も明日も南東の風晴曇半し驟雨模様

# 今晚の部

後六、〇〇 子供の時間 童話劇「お月夜のカタチ山」 J O A K 唱 劇 後六、二五「傳説と史績を採ねて」(十六)「善光寺平と姥捨山傳説」 山口菊十郎 後七、三〇 舞臺劇「小栗年」同一之矢神社(三年) 平窪村二本松(四年)同大室山(五年)豊間沼之内(六年)大浦村最勝園(高等科) 湯本町湯之岳

# 代議士郎に忍入り

## 植込に隠れて捕る

### 百姓の辛さに逃げた 勿來町生れの少年

石城郡勿來町道山二四大工 山形縣源治三男清次郎(七) 假名は去る三月千葉縣安房郡主基村下小原農渡邊義 一方に作男に賣られたが百 姓の辛さに廿七日無一文で 逃走徒歩で上京廿九日午後 十時頃豊島區巢鴨元司法參 與官代議士土澤民十郎氏方 の生垣を乗り越え侵入し植 込みに隠れて居た所を取押 へられたと

# 同僚に……

## 費消され

### 申請なく家出

田村郡三春町字荒町五捨男 次男増子國吉(九)は本年二 月より茨城縣日立町雜貨商 金譯八百吉方に店員として 奉公中集金した金九圓餘を 同僚の水戸生れ福田敏男 (三)に横領費消され主人に 申請なしと本月二十五日主 家を逃げ出したが石城の炭 礦方面に居るらしいからと 父親から本日平署に捜査方 を願出た

# 竹内判事夫人

## 過般 平區裁判所より若松區裁判 所に榮轉された判事竹内正 一氏の満洲子夫人は過般來 病氣の爲め任地に赴かず療 養中の處今朝藥石其効なく 終いに逝去された

# 裁判所だより

△石城郡内郷村大字高坂字

明日の部  
前六、三〇 夏期佛語講座 (十八) 井上源次郎  
前七、三〇 夏期英語講座 (四の二) 佐川春水  
前九、一〇 料理献立「鶏肉の船もり焼」河内拾松  
前九、〇〇 「震災記念十 年祭追悼法要」本所震災 記念堂より中繼  
前一〇、三〇 家庭講座 (休講)  
後一、五五 打鐘(三点) 本所震災記念堂より中繼  
後〇、〇五 合唱と管絃樂 東京ラデオオーケストラ 東京リヂャー、ターフェル、フェライイン  
後二、〇〇 婦人講座「い けばな新しい秘訣十講」 勅使河原峯風  
後六、〇〇 子供の時間 「お話と歌」 永田秀次郎 女子放送合唱團  
後六、二五 講演「大震災 十周年に當り非常時國民 諸君に訴ふ」法學博士 松井茂  
後七、三〇 講演 大震災 十周年記念に際して 文 部大臣鳩山一郎  
後八、〇〇 籠曲 米川文 子その他  
後八、四〇 琵琶新曲「本 能寺」 高峰筑風  
後九、〇〇 和洋合奏 日 活オーケストラ

# 平職業紹介所報告

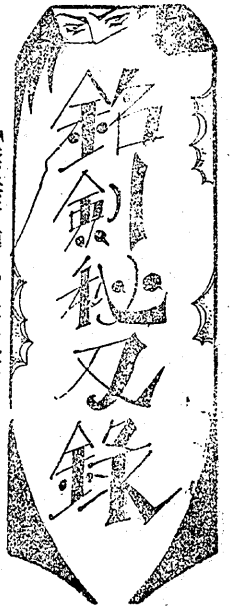
## 回人を求める方

△給仕 二十才 尋卒 日 五十錢(平町某官署)  
△女中 二十才 尋卒 給 料面談(平町某)

# 木村科醫院

平町五丁目橋際 電話九〇三番

△商店員 十六才 尋卒 給料面談(高久村某)  
△コック見習 二十才 尋 卒 給料面談(平町某)  
回職を求める方  
△難役夫 四十五才 尋卒 給料面談(赤井村某)  
△土工夫 三十六才 無學 給料面談(平町某)  
△事務員 三十六才 高卒 給料面談(平町某)  
△料理人 三十才 尋卒 給料面談(茨城縣某)



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演  
山本英春 畫

第三十回 血に飢ゆる村正

御戯れでなくば

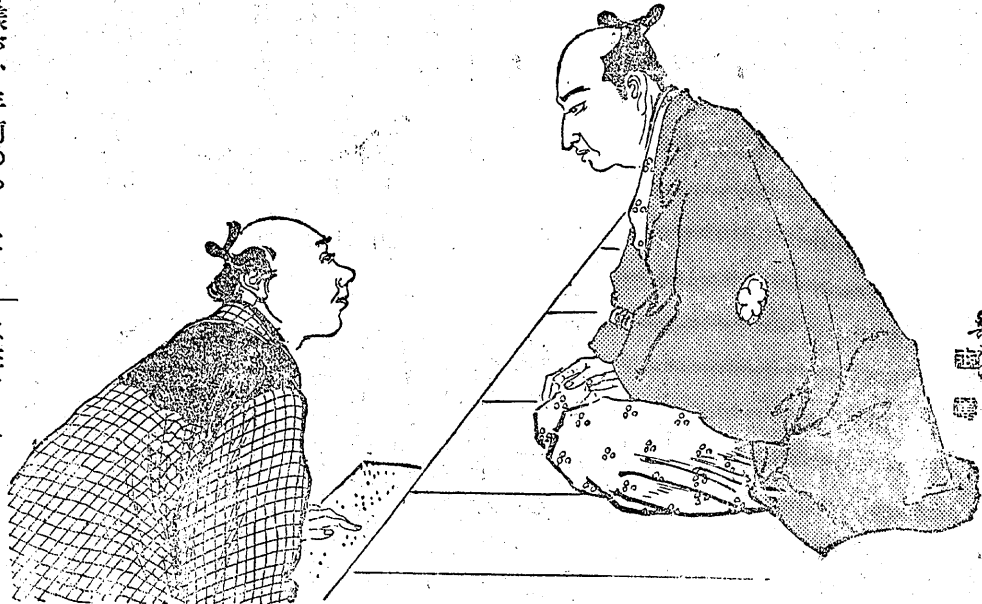
平「今こそ足輕だが後來見込のある男で、モウ一兩年内には充分に取立つて遣はさうと思つて居る位、勤めは宜し、萬事行届いて、武藝なども却々嗜みがある、學問といふ程の事も無いが先づ文字も幾らか存じて居る、どうだ、此者の妻に拙者が媒酌してやらうと思ふが、斯ういふ事は話をしてみなければ分らんが、お前さへ宜いと云へば早速支度をして」

源「イエ婦人、手前の組頭は少々御酌でござるから何か仰しやる事をお氣に掛けてはなりません、お戯れだから」

平「コレ、縁談などに戯れを申すやうな平太ではない、どうだ、一人住居するよりは寧ろ此人を良人として苦榮を共にする方が拙者の考へでは至極宜からうと思ふが……」

と云ふと此の女が顔に紅葉を散らして差俯むいたなり、暫らく源十郎の方を見て、勝平太の顔を見て考へて居る、平太は手を打つて平「締たぞ源十、喜へ、源「へへ」

平「先づ是は御採用になつたな、願書得取上げ、事に依ると裏書が附くぞ」  
婦人は稍あつて面を上げ女「誠に有難う存じます、初めてお出でになりました



且那樣が、手前のやうなる不束者に然う仰下さるは有難う存じます、三日間お待ち下さるやう、其内に篤

は往けませ  
ん、此間の枯野の一件でござります、平「枯野」

考へまして御返答申上げます」  
云はれた時にイヤどうも平太も喜んだが、源十郎も腹の内に大きに喜び、當日は其儘立歸りました、斯様に彼女と三日の間に返答をする約束をして、其姓名を明かして立歸りましたが源十郎は毎日に組頭の所へ参り、恰度三日目の事源「お頭今日は三日目でございますな」  
平「何だエ源十、敷から棒に三日目とは」  
源「お頭、お忘れなすつて

源「困りましたな、どうもソレ一軒家へ寄つて酒の爛をして貰ひ、其處に居りました婦人と四方山の話の末お頭が次第によつたら夫婦にしてやらうと仰しやつて」  
平「ア然う、そんな事かあつたつけ、イヤどうもあの日は取分け大醉をして居たから夢のやうに覺えて居る、貴様に云はれたので思ひ出した、イヤどうも氣の毒千萬な」  
源「どうしたものでございませう、今日は三日目になりますか」  
平「そんなに源十郎急がんで宜いではない、アノ時拙者が話さうとしたら、止して呉れ、と申したではないか」  
源「アノ節は極りが悪うございまして、是迄私は婦人に執念などをした事ございせんが、彼はどうか家内にしたと思ひます」  
平「ウム、貴様が夫程に思ふなら、今日先から返事がなかつたら拙者がもう一度参つて話をしやう」  
源「どうか何分お願ひ申します」

と下男案内をして庭口から通入つて来たのは、半服は農業纏を着て朴訥の百姓勝平太の姿を見ると遠くから小腰を屈めて沓脱きの所へ来て手を仕へて頭を下げて、勝平太縁先へ出て参りました  
平「何だ貴様は」  
又「勝平太様と仰しやるのは」  
平「拙者だが、貴様は何處から参つた」  
又「私は太田村の百姓又助と申しますが、此間旦那様が枯野見物の折手前の懇意にいたします婦人の所へお立寄になりました」  
源「組頭、返事でございませう、斯ういふ男を遣す所を見ると破談かな」  
平「源十、少し待つて居ろウム」  
又「其砌、今日御返事申す様に御約束をしたさうで、本人から頼まれて手前が参りました」  
平「ア、然うか、善悪を先に申せ、其後細かい話を聞かう、破談なれば委しく聞くには及ばん」  
又「破談どころではございませぬ、お戯れではないか、好く聞いて来て呉れ、全く然ういふ事なればお言葉に従ひますと斯様申しますので」  
平「源十」  
源「聞きました、とうも犬出来」  
平「何故踊る、ア、承知したか」

と話を居る所へ下男が男「エー百姓の又助といふ者が参りました、旦那様にお目に掛りたと申します」  
平「百姓又助……どんな男だな」  
男「五十四五になります百姓で」  
平「ア、何だか遇つて見やう、庭の方へ廻せ」  
男「長まりました」

★ ★ ★ ★ ★  
★ ★ ★ ★ ★

**故福太郎儀** 本年新盆に相當り候得共時節柄提灯其他供物一切乍勝手固く御辭退申上候  
昭和八年八月  
平三丁目 高木や本店 敬具

**故喜代三儀** 本年新盆に相當り候得共時節柄提灯其他供物等一切御辭退申上候に付豫め得貴意度候也  
平町研町十三番地  
二丁目 田卷造酒之助 敬具

**故末吉儀新益**に相當り候得共提灯供物其他金品一切御贈與の儀固く御辭退申上候  
昭和八年八月  
五丁目 金光堂時計店 敬具

**故吉田禮次郎儀** 新盆に相當り候得共提灯供物其他金品一切御贈與の儀固く御辭退申上候間不惡御了承願上候  
昭和八年八月  
平白銀町 吉田新聞店 敬具

**故正男** 儀新盆に相當り候得共時節柄提灯供物其他一切勝手ながら御辭退申上候  
平町材木町十七番地  
藤田儀二郎 敬具